

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

武豊町地域公共交通会議

平成21年4月30日設置

フィーダー系統 平成28年6月28日 確保維持計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿

■ 地域の特性と背景

●地域特性・公共交通問題

- ・面積25.82km²、人口42,408人（H22年国勢調査）
- ・名鉄河和線の3駅、JR武豊線1駅の鉄軌道があるが、路線バスはない。
- ・住民から公共交通サービスの提供に対する要望、公共交通空白問題を抱えていた。

●地域公共交通の取組経過

- ・H22/3に地域公共交通総合連携計画を策定。コミュニティバスの試行運行をH22/7/27に、事前予約制バス（タクシー）をH23/9/1より開始。

●地域公共交通ネットワーク形成の考え方（フィーダー路線の位置づけ）

- ・総合連携計画で示した交通システムの狙いは、二つの鉄軌道を広域の南北方向の移動を支えるまちづくりの「骨格」として捉え、中心市街地の名鉄知多武豊駅を中心に、町内の主要施設と市街化区域をカバーするループ型のコミュニティバス路線を地域内の「幹線」として平成22年7月よりネットワークを構築している。
- ・コミュニティバス・鉄軌道の利用促進と市街化調整区域等をカバーするため、事前予約制・区域運行の乗合タクシーをコミュニティバスの支線として接続させる形で、平成23年9月より運行を開始した。
- ・平成25年には調査補助を活用し、利用実態・住民ニーズを検証し、地域公共交通網形成計画への計画変更の検討を開始し、平成27年4月に策定した。
- ・当該計画の見直しを通して、4つのルートから、緑ルートを赤ルートに統合・再編し、平成27年10月より赤・青の2ルートへと事業転換を行っている。
- ・平成29年3月1日に、北部赤ルートの停留所の位置を変更した。

■ 計画の将来像及び期間

●武豊町地域公共交通網形成計画の将来像

- ・お年寄り等が、安全に暮らせ、気軽に移動できる生活の足の確保。

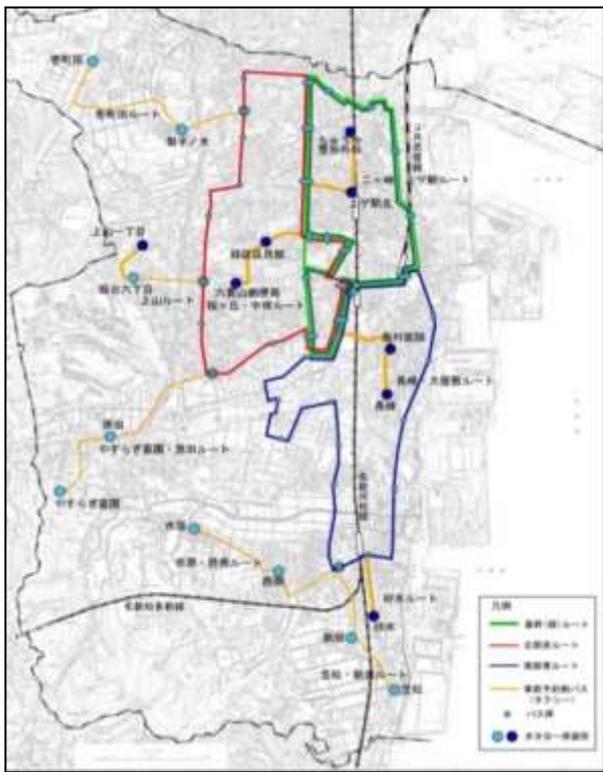
●計画期間

- ・平成27年度～平成33年度（7カ年）

総合計画の計画期間に連動

1.協議会が目指す地域公共交通の姿

■ 公共交通ネットワークイメージ



再編前

再編後のネットワーク
(平成30年9月末現在)



2.計画の達成状況の評価に関する事項

● バスネットワーク（コミュニティバス）の目標設定と評価基準

- 安定した事業を目指すため、「対前年比プラスの利用者増」と「財政支援額の悪化を防ぐ」
- 気軽に利用されている姿を描くため、アウトカム指標として「住民の公共交通の利用割合が、現状値よりも向上している」目標を設定する。（計画最終年に調査予定）

平成29年度 生活交通確保維持改善計画の目標値

青ルート年間利用者数	12,900人
赤ルート年間利用者数	31,700人
小計	44,600人

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

①武豊町コミュニティバス事業（事業主体：武豊町、交通事業者）

【補助対象事業】

- 地域公共交通確保維持改善事業（平成29年度）
（幹線系統補助：武豊町コミュニティバス 赤ルート）
（フィーダー系統補助：武豊町コミュニティバス 青ルート）

【非補助事業】

- 事前予約制バス（タクシー）事業：乗合タクシー

②公共交通利用促進事業（事業主体：武豊町、交通事業者、地域組織）

【非補助事業】

- 利用促進友の会による利用促進事業（武豊町補助、地域組織）
- 産業まつりコミバス無料の日事業（武豊町）
- 時刻表の作成（武豊町）・・・平成29年3月対応
- 町内保育園へのバス出張訪問「はじめてのゆめころん」（武豊町）
- オリジナルソング「ゆめころんのうた」CD発売（NPO法人エンドゴール）
- 町内保育園と協力して「ゆめころんのうたのおどり」完成（武豊町）

4. 具体的取組みに対する評価

- 地域全体の公共交通網を踏まえた評価（幹線系統を含めたネットワーク全体の評価）
 - 武豊町の公共交通ネットワークは、鉄道駅を基点に、バスネットワークを形成し、幹線系統の赤ルートとフィーダー系統の青ルートを形成している。
 - コミュニティバス全体及び赤・青ルート別の利用者数は、前年平成28年度との比較で大幅に増加している。（詳細は以下に整理）
 - コミュニティバスの利用を促す乗合タクシーの利用もH28年度の1,390人から1,434人に3%増加し、ネットワークすべてで利用者数が増加した。
- 生活交通確保維持改善計画に掲げられた目標値についての評価（コミュニティバスの評価）
 - 生活交通確保維持改善計画に掲げていた目標値に対して、利用実績は上回り、目標を達成している。
 - 地域公共交通網形成計画での目標は、対前年比プラスとしており、利用者数は増加傾向にあり、網形成計画での目標も達成できている。

＜バスネットワーク全体の目標設定と利用実績評価＞

平成29年度 (H28/10～H29/9)	H27年度 実績	H28年度 実績	H29年度 目標	H29年度 実績
ネットワーク全体（H27緑ルート含む）	37,208人	47,930人	44,600人	54,516人
幹線系統：赤ルート (1便当たり（年360日*11便）)	17,189人 (8.0人/便)	33,803人 (8.5人/便)	31,700人 (8.0人/便)	38,162人 (9.7人/便)
フィーダー系統：青ルート (1便当たり（年360日*11便）)	8,029人 (4.5人/便)	14,127人 (3.6人/便)	12,900人/年 (3.3人/便)	16,354人/年 (4.1人/便)

- 適切に事業が実施できたか
 - 平成28年度に再編した際に利用者数は大幅に増加した。平成29年度も道路整備の進捗に併せて、一部バス停留所の移設を行い、利便性の向上を図る。こうした事業見直しに対して、順調に利用者数は増加している。運行面でも年間を通して、トラブルなく運行を継続できている。
 - また、利用者数も増加しているため安定した運賃収入を得ている。

5.自己評価から得られた課題と対応方針

<自己評価から得られた課題>

1) 目標の達成状況に関する課題

- ・利用者増が一過性の変化にならないよう、継続して利用拡大することが必要。

2) 公共交通ネットワークに関する課題

- ・利用者の利便性を高めるためのルート・停留所・ダイヤ等の見直しを継続することが必要。

3) 公共交通の維持に関する課題

- ・武豊町からの財政支援額（赤字）の悪化をさせないように運賃収入の拡大を進める等、安定した事業継続することが必要。



<課題をふまえた対応>

0) 交通網形成計画の適切な推進

- ・平成30年度は「中間評価年度」であるため、事業進捗・利用者ニーズ等調査・評価活動を実施する。

1) 目標達成に関する課題への対応

- ・保育園への出張訪問や利用促進友の会の協力を得ながら、利用促進活動を継続する。

2) ネットワークに関する課題への対応

- ・中間評価を念頭に、利用の少ない停留所の見直し等、ルートの改善などを行う。

3) 公共交通の維持に関する課題への対応

- ・更なる利用者拡大による運賃収入の増加を目指す。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

武豊町地域公共交通会議

平成21年4月30日設置

フィーダー系統 平成28年6月28日 確保維持計画策定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ● H27年度二次評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート、ヒアリング、専門部会の検討などを通して、効率性と利便性の向上を図った公共交通ネットワークを構築されたことを評価します。 ・ 今後も利用促進の取組、利便性の向上を図ることを希望します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用促進活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進友の会を通して、各種利用促進活動を継続して実施した。 ● 利便性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークを再編し、平成27年10月より、赤・青ルートに2路線に転換。 ・ H28年3月に青ルート：総合体育館停留所付近のルート変更。4月に地域交流センターの新設。 ・ 9月次期事業者の選定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者増に向けた対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進友の会の活動支援の実施。 ・ サロン等での出前講座を実施し、要望意見の集約、PRの実施。 ● PDCAの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 武豊町地域公共交通会議を定期的を開催し、事業の進捗状況を確認する。随時事業の見直しを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度二次評価 2月頃報告（予定） 	⇒指摘をふまえて検討予定	⇒同左

2.アピールポイント（武豊町コミュニティバス利用促進友の会）

- 「あいちエコモビリティライフ」の推進団体として表彰（※1）
 - 愛知県が推進する「あいちエコモビリティ」の推進団体として平成24年度に表彰される。
 - 選考委員の主なコメント「住民の皆さんが自分達で組織を立ち上げ、利用促進だけでなく、いろんな活動をされている。交流が活発になされていることについて選考委員の評価が高かった。」
- 平成28年度 中運輸局長表彰（※2）
 - 武豊町コミュニティバス利用促進友が公共交通の利用拡大について功労団体として中部運輸局長から表彰される。
- 平成29年3月 あいち公共交通ビジョンに掲載（※3）
 - 住民主体の利用促進の取組事例として、武豊町コミュニティバス利用促進友の会の活動が紹介される。



※1

武豊町コミュニティバス 利用促進友の会
(愛知県武豊町)

団体名 武豊町コミュニティバス 利用促進友の会
代表者名 櫻場 敬信

取組みの背景

- 愛知県武豊町では、平成16年に巡回バスの試行運行を行ったが、利用者が少なく本格運行を断念した。その後、高齢者等の生活の足の確保が問題化したことから平成22年7月からコミュニティバス「ゆめころん」の運行を始めています。
- コミュニティバスが、継続して運行されるには、「地域に愛され利用が増えなければならない」という問題意識を持った住民の方々が「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」を設立し、マイバス意識を向上させるための利用促進活動に取り組んでいます。

主な活動内容

- バス停のベンチを、住民自らが作ることで、「マイベンチ」という意識を持ってもらい、コミュニティバスへの愛着をより深める取り組みを実施しています。
- バスの時刻表がわかりにくいと声を受け、利用者の多い施設への行き方や乗り方を記載した「お出かけレシビカード」を作成し、バス停に配置しています。
- 毎日、56人目に乗車のお客さんに月替わりのプレゼントを贈る「ハッピーゆめ56人キャンペーン」や、コミュニティバスを利用した、ミステリーツアーを企画するなど利用促進に努めています。

ツア参加者による集合写真

住民によるベンチ(マイベンチ)づくりに取り組みました。

お出かけレシビカード

図 4-39 住民主体の利用促進の取組（武豊町）【エ.の参考例】

【武豊町コミュニティバス利用促進友の会の事例】

武豊町では、コミュニティバスが継続して運行されるには、「地域に愛され利用が増えなければならない」という問題意識を持った住民の方々が「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」を設立し、行政・運行事業者と協力しながら町民自らが柔軟な発想と行動でコミュニティバスの利用促進事業の企画や運営を実施している。住民主体の団体であるため利用者にとって身近な目線で多くの住民を巻き込んだ事業を展開している。

バスベンチづくり
(梓原新社區にオリジナルベンチを設置)

コミュニティバスツアー
(観光ガイドボランティアとともに観光地を巡るツアー)

※3

※コミュニティバス事業は、行政主導ではなく、住民参加・住民との協働による事業展開が、エネルギーになっている。

● 平成28年度には、利用促進友の会のアイデアで「ペーパークラフト（右図）」が作成され、イベント等で配布されている。



2.アピールポイント（町事業）

● バスナビゲーションサービスの提携

- 武豊町コミュニティバスゆめころんのダイヤや停留所の位置情報がインターネット上でナビゲーションサービスを提供しているサイト「ナビタイム」「ジョルダン」より検索できるようした。
- 従来は、時刻表や停留所にある時間を見ないと調べることができなかったが、ネット上で調べることができるようにした。

<ナビタイム携帯画面>



<ジョルダンPC画面>



● はじめてのゆめころん（町内保育園への出張訪問）

- 町内全保育園を対象にバスの出張訪問を実施し、安全なバスの乗り方に関する教育等を行う。
- 友の会で作成した「オリジナルペーパークラフト」等の告知を行い、子ども及びその親世代の利用促進を図る。
- コミュニティバスのオリジナルソング「はじめてのゆめころん」に合わせた保育士と協力をしながら考案。踊り方の動画を動画共有サイト「youtube」で公開し、普及に努める。

